

を與へて下さい』

と祈りました。

其後此の老人はもう胡弓をひくをせず、無事に一生を送つたといふことで御座います、

(獨逸物語中より抄譯)

いそつぶ物語

其四十四 子供と狼

羊の番をして居る子供が、何時も、狼だくと呼び廻はつては、吃驚して出て来る村人等を見て、指さして、嘲笑つて居りました。所が、或日の夕方、眞個に狼がやつて來たので、これは大變だと思つて、大聲を上げて、『狼が來た誰か來てくれ』といつて、走り廻はりましたが、村人らは、又彼の小僧めが惡戯をして居るといつ

て、誰も出てきてくれません、夫で狼は、思ふ存分に羊を捕つて食つて歸りましたとさ。眞實のことといつても、嘘咄きの言ふことだと、誰も信じません。

其四十五 子供と蛙

子供らが、よつてたかつて 池の端で遊んで居ると、蛙どもが、時々水の上に頭を出して来る、夫を面白がつて石を投げつけては殺して居ますと、とうとう 其中の一匹が 頭を出して來て言ひますには『子供さん、お願いだから、どうか 止して下さいな ねなた方は、夫で面白いでせうが、私共は、一匹づゝ死んで行くのですよ』

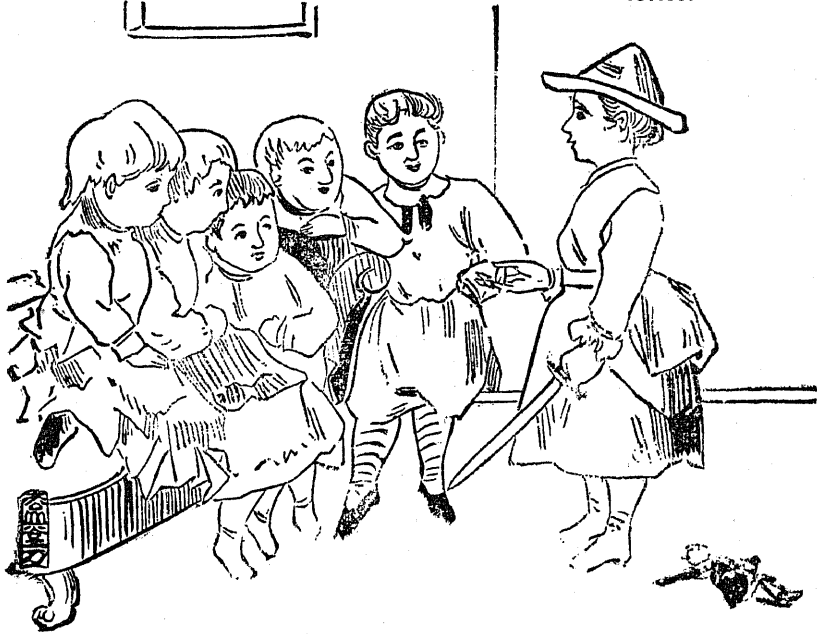
室内のお遊び

(六) 南京さん

一人の子が、南京さんになつて『私は南京さんで
す私は ドを賣ります さあ〜買つて下さい』
と言つて歩く。すると、他の子供は、支那で出來
る物の中で、始めに ドの字のつく物は何だかを
考へて言ひ當てるのです。早く言ひ當てた人は、
代つて南京さんになり、又何か 違つた字を代へ
て言ひ歩きます。

(七) 飛べ〜鳩よ

皆が寄つて、片手を机の上に出して置きます。そ
こで、一人が傍に居て「とべ〜鳩よ」と言ひま
すと、すぐに皆が手を机から離す、然し、若し飛
ぶことの出來ないものと言つて 例へば「飛べ〜
馬よ」など言ひ出したら、皆じつと手を其儘に
置くのです。若し間違つて、そんな時に 手を上
げたり 又は飛ぶ時にむつとしたりして居たら、



罰金を取られることにするのです。

(八) 手巾遊び

四人で、手巾の四隅を持つて居ると、一人は其側に居て、「確り持つて」と言ふと、四人はすぐに手巾を離す。「離して」といつたら、反對に、確り持つて居るのです、誰でも間違つた人は、罰に當てられます。

(九) 土と言つたら犬

皆が寄つて、輪に成つて座ります、さて其中の一人が、手巾を取つて、土、火、水、空氣の中で自分の思つたのを一つ言つて、其手巾を座つて居る誰かに向つて投げるのです。すると、投げられた人は、其手巾を取るとすぐ、例令ば「土」と言つて投げられたとすれば、土に住む者、何でもよい、犬とか牛とか言つて答へる「水」と言つて

投げられたら 水の中に住む魚の名を言ふ「空氣」と言はれたら 鳥の名を答へる「火」と言はれたら 黙つて受ける、投げる人は、投げて置いて、一二三四五六七八九十と數へて居る、其間に受ける人が答が出来なかつたら、次に他の人に投げる、間違つて 例令ば 水と言はれて 馬など答へる者があつたら、罰として脱される、甘くすぐ言ひ當てたら、その人は、やぐに又 水なら水といつて、他の人に投げるのです。以上は三つとも、ごく手早くやらねば面白くありません。

◎考へもの

一番、前號の答
時計の針。二番、人を乗せた馬。